

岡山県感染症週報 2016年 第25週 (6月20日～6月26日)

◆2016年 第25週 (6/20～6/26) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第24週 5類感染症 後天性免疫不全症候群 1名(30代 男)
- 第25週 2類感染症 結核 4名(20代 女 1名、70代 男 1名・女 1名、80代 女 1名)
- 3類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 2名(O103:20代 女 1名、50代 女 1名)
- 4類感染症 レジオネラ症 1名(70代 女)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

- ヘルパンギーナは、県全体で 210 名(定点あたり 2.04 → 3.89 人)の報告があり、前週より増加しました。
- 感染性胃腸炎は、県全体で 317 名(定点あたり 5.19 → 5.87 人)の報告があり、前週よりわずかに増加しました。

1. [ヘルパンギーナ](#)は、県全体で 210 名(定点あたり 2.04 → 3.89 人)の報告があり、前週より増加しました。過去 10 年間の同時期と比較して最も多くなっています。地域別では、岡山市(7.57 人)、備北地域(5.50 人)、美作地域(3.33 人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。特に岡山市では、定点あたり報告数が 6 人を上まわったため、発生レベル 3 となりました。県内の発生状況など、詳しくは「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。
2. [感染性胃腸炎](#)は、県全体で 317 名(定点あたり 5.19 → 5.87 人)の報告があり、前週よりわずかに増加しました。地域別では、倉敷市(7.45 人)、備前地域(7.30 人)、備北地域(6.25 人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。ひきつづき手洗いの徹底や下痢便・おう吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。県内の発生状況など詳しくは、「[感染性胃腸炎週報](#)」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2015/2016 年 感染性胃腸炎情報](#)』をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★	RSウイルス感染症		★★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★
感染性胃腸炎		★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		★★★★
突発性発疹		★	百日咳		
ヘルパンギーナ		★★★★★	流行性耳下腺炎		★★★★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎		★	クラミジア肺炎		
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移：
 : 2 倍以上の減少 : 1.1～2 倍未満の減少 : 1.1 未満の増減
 : 1.1～2 倍未満の増加 : 2 倍以上の増加

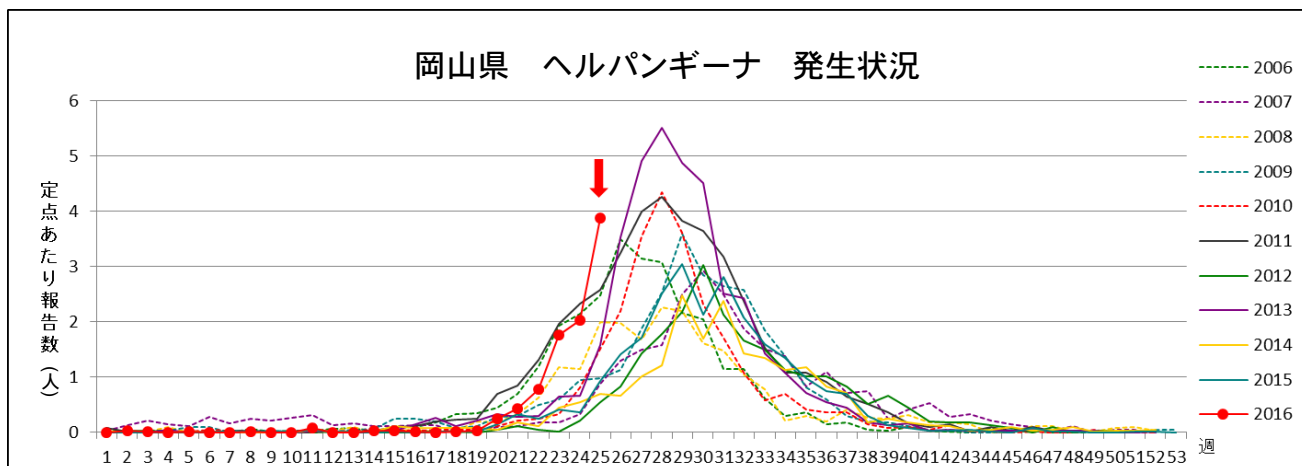
発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

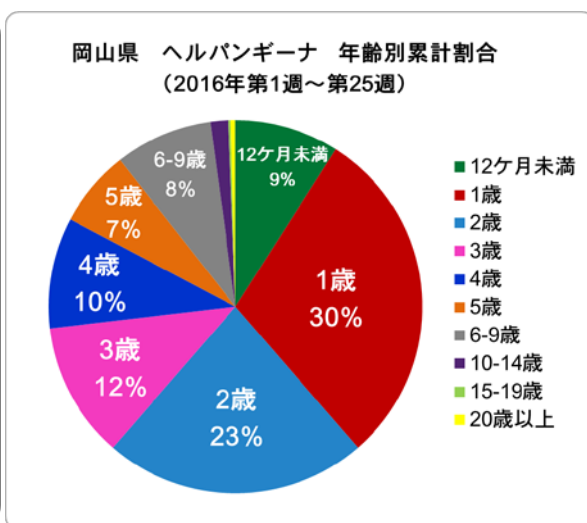
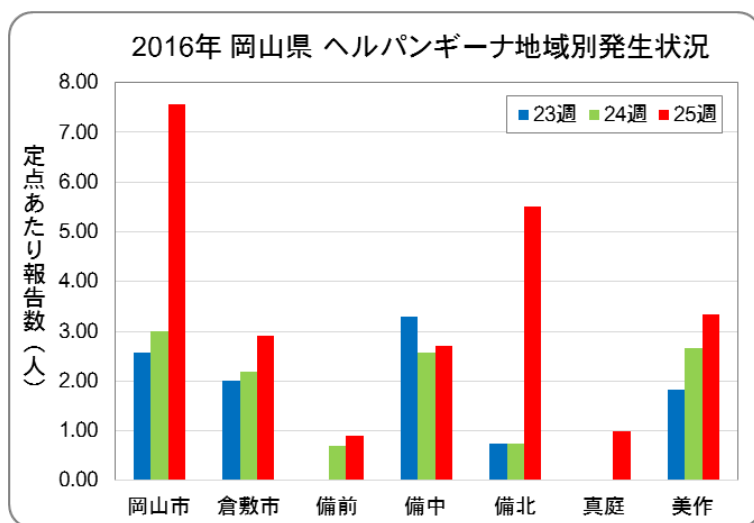
今週の注目感染症

ヘルパンギーナ

【岡山県の発生状況】



ヘルパンギーナは、県全体で 210 名（定点あたり 2.04 → 3.89 人）の報告があり、第 17 週（4/25～5/1）以降、増加傾向にあります。過去 10 年間の同時期と比較して最も多くなっています。地域別では、岡山市（3.00 → 7.57 人）、備北地域（0.75 → 5.50 人）で、前週より大きく増加しており、特に岡山市では、定点あたり報告数が 6 人を上まわったため、発生レベル 3 となりました。2016 年第 25 週までの年齢別累計割合では、1 歳 30%、2 歳 23%、3 歳 12% の順で高くなっており、5 歳以下の乳幼児が全体の 91% を占めています。



岡山県地区別 ヘルパンギーナ感染症マップ

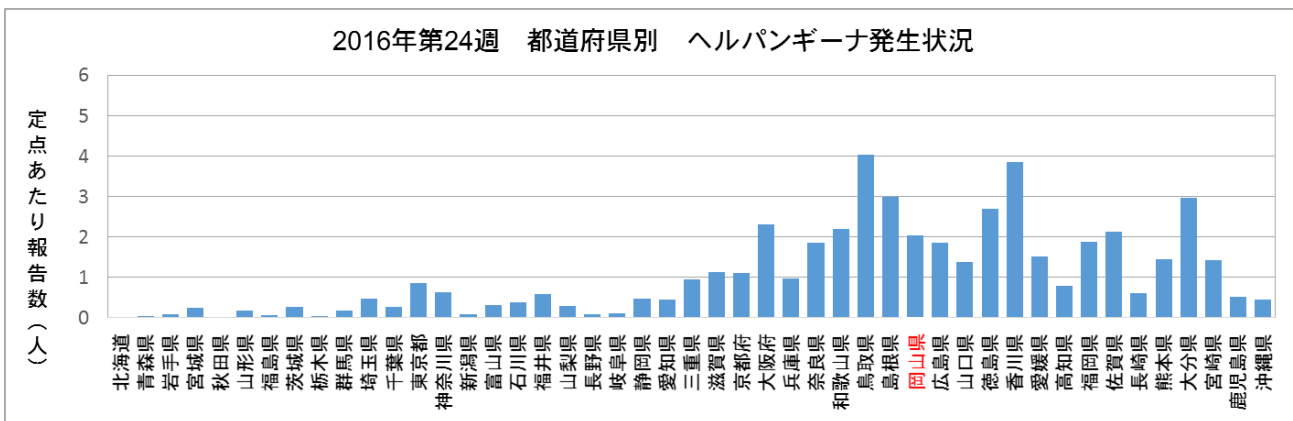
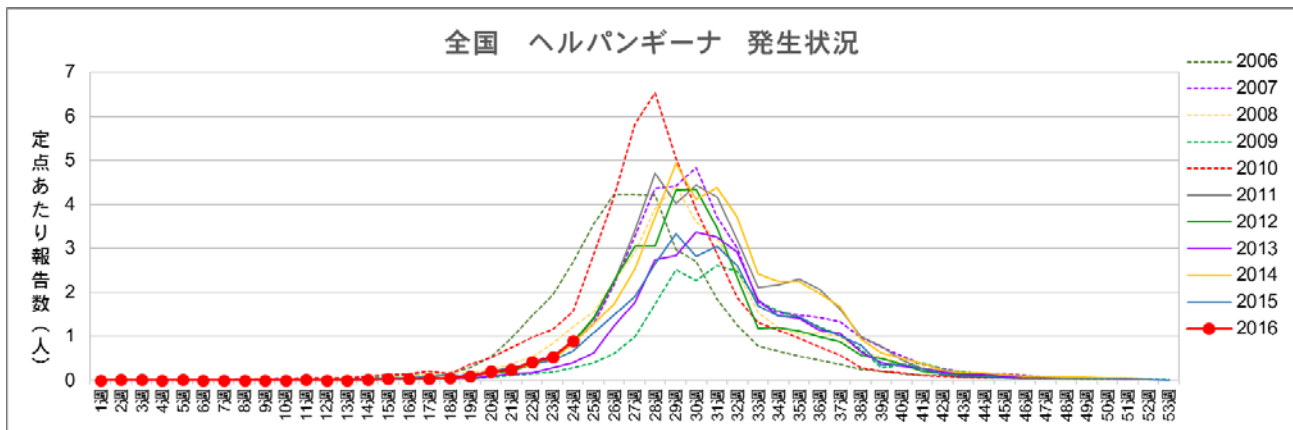


＜ヘルパンギーナ 発生レベル 基準＞

レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
6	2	
レベル1	報告なし	
基準値	基準値	
0 < 6 未満	0	

レベル 3 の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないとレベル 3 が継続されます。

【全国の発生状況】



全国の第 24 週の発生状況は、定点あたり報告数が 0.91 人と、8 週連続で増加しました。都道府県別では、鳥取県（4.05 人）、香川県（3.86 人）、島根県（3.00 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。近隣県でも多くの患者が報告されているため、ひきつづき県内の発生状況に注意するとともに、うがいや手洗いを励行するなど感染予防に努めましょう。

【ヘルパンギーナとは】

ヘルパンギーナは、乳幼児を中心に夏季に流行する急性ウイルス性咽頭炎で、いわゆる夏かぜの代表的疾患です。主にコクサッキーウイルスA群などが原因となります。感染している人が、咳やくしゃみをした際に飛び散るしぶきを浴びてウイルスを吸い込むことや、便の中に排出されたウイルスが、手指などを介して口に入ることによって感染します。毎年、5月頃から患者が増加し始め、7月頃にかけてピークとなる傾向があります。

【症 状】

症状は、突然の発熱（38～40℃）につづいてのどが痛くなり、口腔内に直径1～5mmほどの赤い小水疱が、多数出現するのが特徴です。小水疱は、やがて破れて痛みを伴います。通常、2～4日で軽快し予後は良好な疾患ですが、発熱時に熱性けいれんを伴ったり、口腔内の痛みのため、食事や水分を十分にとれず脱水症状を呈することがあります。まれに、無菌性髄膜炎や急性心筋炎などを合併することもあるため、お子さんの状態に注意し、頭痛やおう吐がみられる際には、早めに医療機関を受診してください。

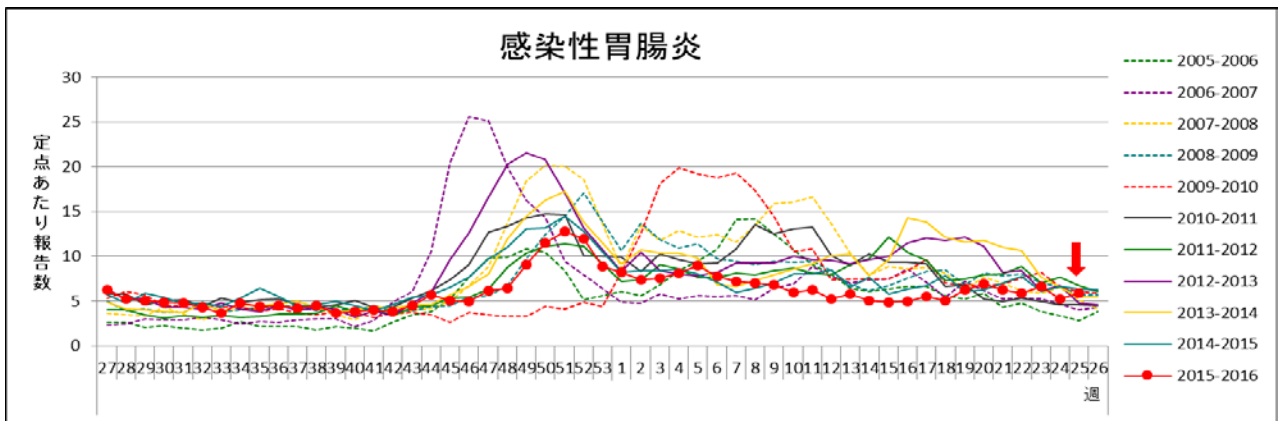
【予 防】

患者との密接な接触を避け、うがいや手洗い・手指の消毒を行い、オムツや便の取り扱い時には使い捨てのゴム手袋を使用するなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。症状が治まっても、2～4 週間の長期間にわたり便の中にウイルスが排出されるため、保育園、幼稚園、学校などの集団生活では注意が必要です。

ヘルパンギーナとは（国立感染症研究所）

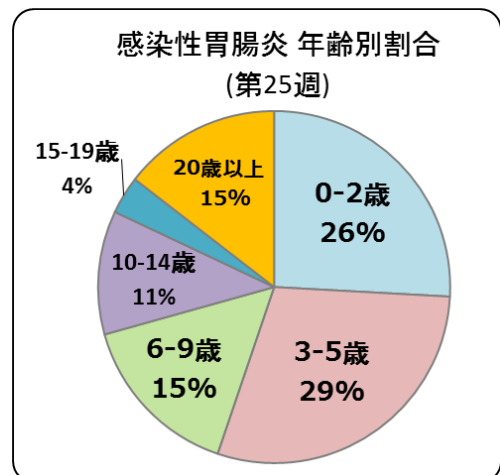
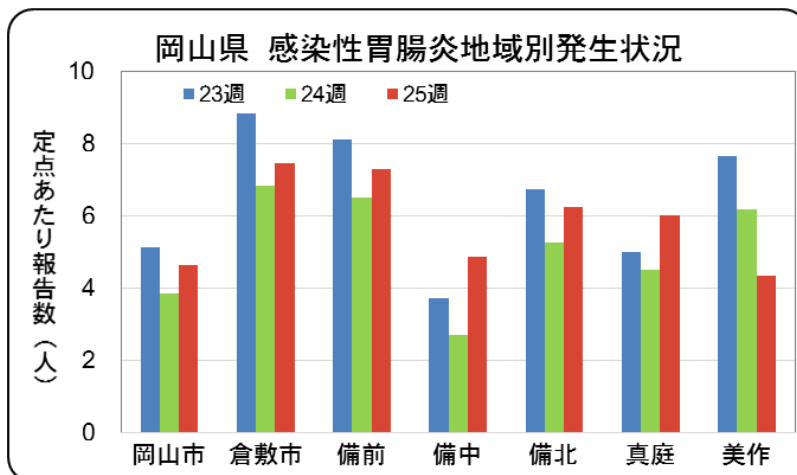
感染性胃腸炎週報 2016 年 第 25 週 (6 月 20 日 ～ 6 月 26 日)

○感染性胃腸炎は、県全体で 317 名（定点あたり 5.19 → 5.87 人）の報告がありました。（54 定点医療機関報告）



※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27 週～翌年 26 週でグラフを作成しています。

◆地域別・年齢別発生状況



感染性胃腸炎は、県全体で 317 名（定点あたり 5.19 → 5.87 人）の報告があり、前週よりわずかに増加しました。地域別では、倉敷市（7.45 人）、備前地域（7.30 人）、備北地域（6.25 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。第 25 週年齢別割合では、3－5 歳 29%、0－2 歳 26%、6－9 歳・20 歳以上 各 15% の順で高くなっています。

例年、梅雨から夏にかけての高温多湿になる時期は、食中毒菌による感染性胃腸炎も増加します。特にトイレの後や調理・食事の前には、石けんと流水でしっかりと手を洗うなど、感染予防に努めてください。

◆◆◆ 食中毒予防の 3 原則 ◆◆◆

- 「清潔」（菌をつけない）
 - ・調理前、食事前、用便後には、手をよく洗いましょう。
 - ・まな板、ふきん等の調理器具は、十分に洗浄消毒を行いましょう。
- 「迅速・冷却」（菌を増やさない）
 - ・生鮮食品、調理したものは、できるだけ早く食べましょう。
 - ・生鮮食品や調理後の食品は、10℃以下で保存しましょう。
- 「加熱」（菌をやっつける）
 - ・加熱して食べる食品は、中心部まで十分に火を通しましょう。
 - ・特に、食肉等は中心部まで十分に火を通しましょう。

（食肉の生食は避けましょう。）

（岡山県生活衛生課 HP より）

保健所別報告患者数 2016年 25週（定点把握）

（ 2016/06/20～2016/06/26 ）

2016年6月30日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1	0.01	—	—	—	—	—	—	1	0.08	—	—	—	—	—	—
RSウイルス感染症	2	0.04	—	—	—	—	—	—	2	0.29	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	18	0.33	9	0.64	2	0.18	1	0.10	2	0.29	—	—	—	—	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	55	1.02	8	0.57	29	2.64	6	0.60	5	0.71	—	—	—	—	7	1.17
感染性胃腸炎	317	5.87	65	4.64	82	7.45	73	7.30	34	4.86	25	6.25	12	6.00	26	4.33
水痘	21	0.39	6	0.43	6	0.55	4	0.40	—	—	1	0.25	—	—	4	0.67
手足口病	21	0.39	5	0.36	7	0.64	8	0.80	1	0.14	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	20	0.37	2	0.14	12	1.09	1	0.10	1	0.14	—	—	3	1.50	1	0.17
突発性発疹	18	0.33	6	0.43	3	0.27	1	0.10	1	0.14	4	1.00	—	—	3	0.50
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	210	3.89	106	7.57	32	2.91	9	0.90	19	2.71	22	5.50	2	1.00	20	3.33
流行性耳下腺炎	70	1.30	33	2.36	22	2.00	5	0.50	6	0.86	3	0.75	—	—	1	0.17
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	2	0.17	—	—	2	0.50	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	2	0.40	—	—	2	2.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

（－： 0 or 0.00） （空白：定点なし）

保健所別報告患者数 2016年 25週(発生レベル設定疾患)

(2016/06/20～2016/06/26)

2016年6月30日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1	0.01	—	—	—	—	—	—	1	0.08	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	18	0.33	9	0.64	2	0.18	1	0.10	2	0.29	—	—	—	—	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	55	1.02	8	0.57	29	2.64	6	0.60	5	0.71	—	—	—	—	7	1.17
感染性胃腸炎	317	5.87	65	4.64	82	7.45	73	7.30	34	4.86	25	6.25	12	6.00	26	4.33
水痘	21	0.39	6	0.43	6	0.55	4	0.40	—	—	1	0.25	—	—	4	0.67
手足口病	21	0.39	5	0.36	7	0.64	8	0.80	1	0.14	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	20	0.37	2	0.14	12	1.09	1	0.10	1	0.14	—	—	3	1.50	1	0.17
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	210	3.89	106	7.57	32	2.91	9	0.90	19	2.71	22	5.50	2	1.00	20	3.33
流行性耳下腺炎	70	1.30	33	2.36	22	2.00	5	0.50	6	0.86	3	0.75	—	—	1	0.17
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	2	0.17	—	—	2	0.50	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3

薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2

を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2016年 第25週 2016/06/20～2016/06/26)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	18	-	2	3	6	-	1	2	1	1	-	-	2	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	55	-	-	2	4	4	12	9	5	6	5	2	6	-
感染性胃腸炎	317	2	21	30	29	26	43	24	17	13	7	12	36	11
水痘	21	-	1	2	2	-	1	3	3	2	1	1	3	1
手足口病	21	-	2	8	3	2	1	1	1	-	1	1	1	-
伝染性紅斑	20	-	-	3	1	3	3	6	-	-	-	2	1	1
突発性発疹	18	-	7	8	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	210	2	16	53	43	31	23	19	9	5	4	2	1	-
流行性耳下腺炎	70	-	-	1	4	11	11	10	9	6	7	3	7	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-

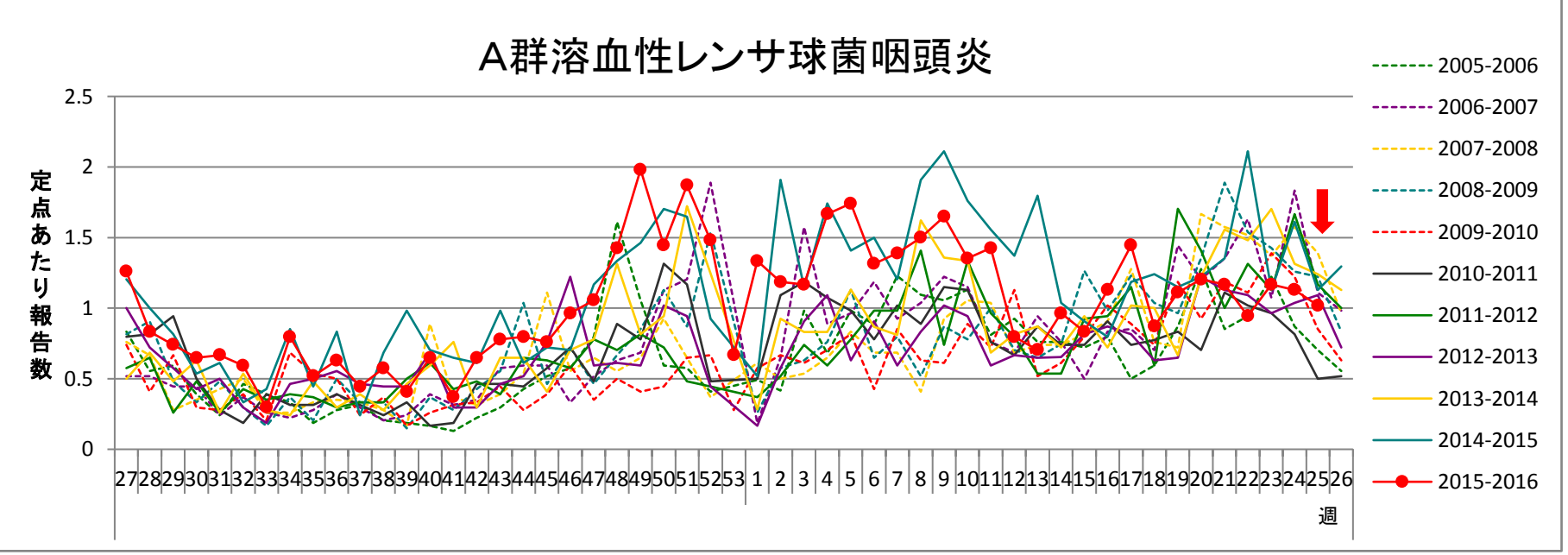
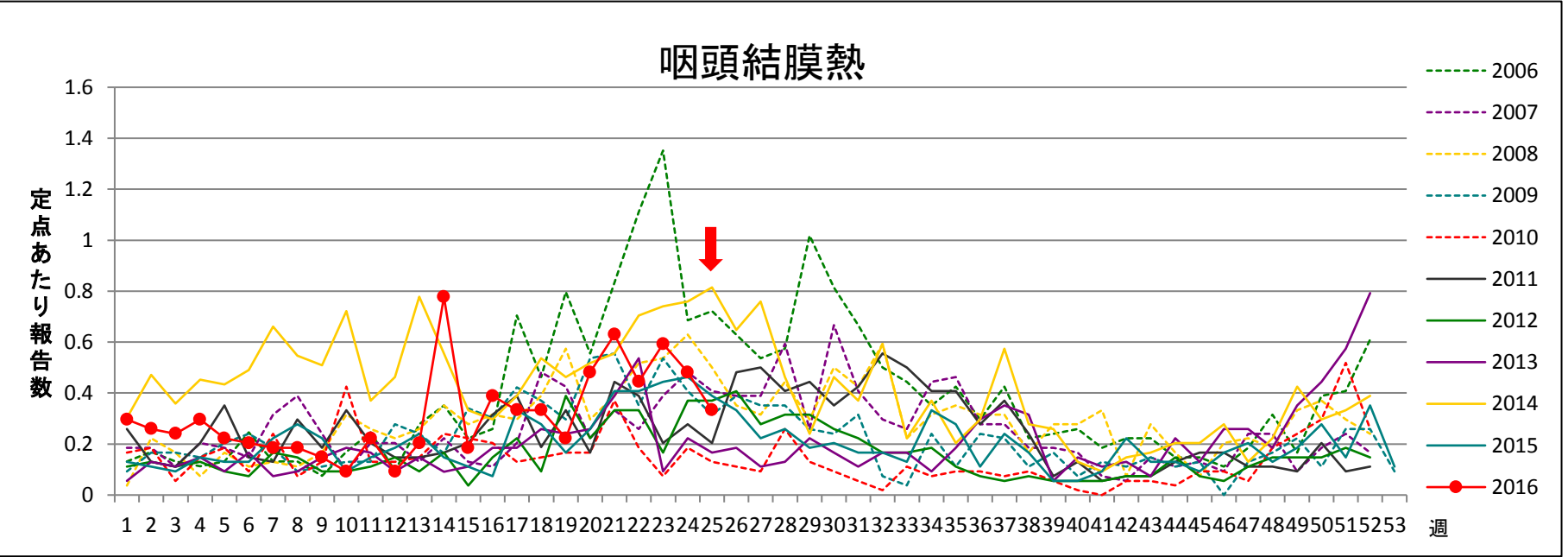
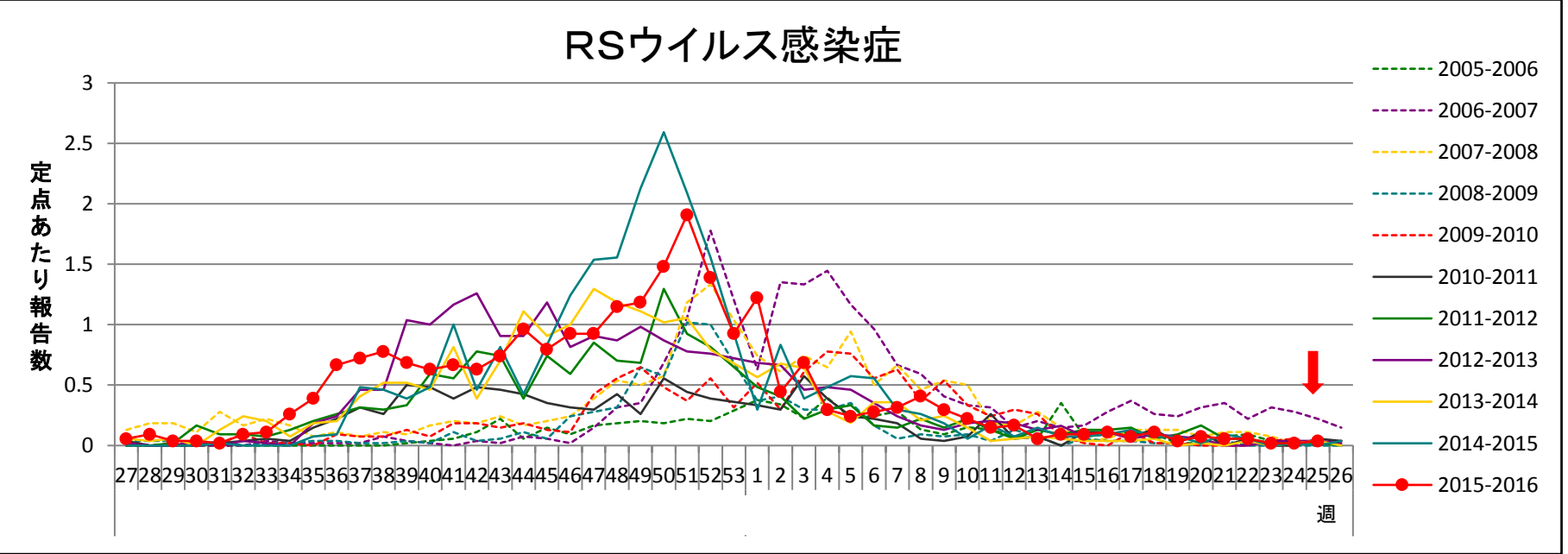
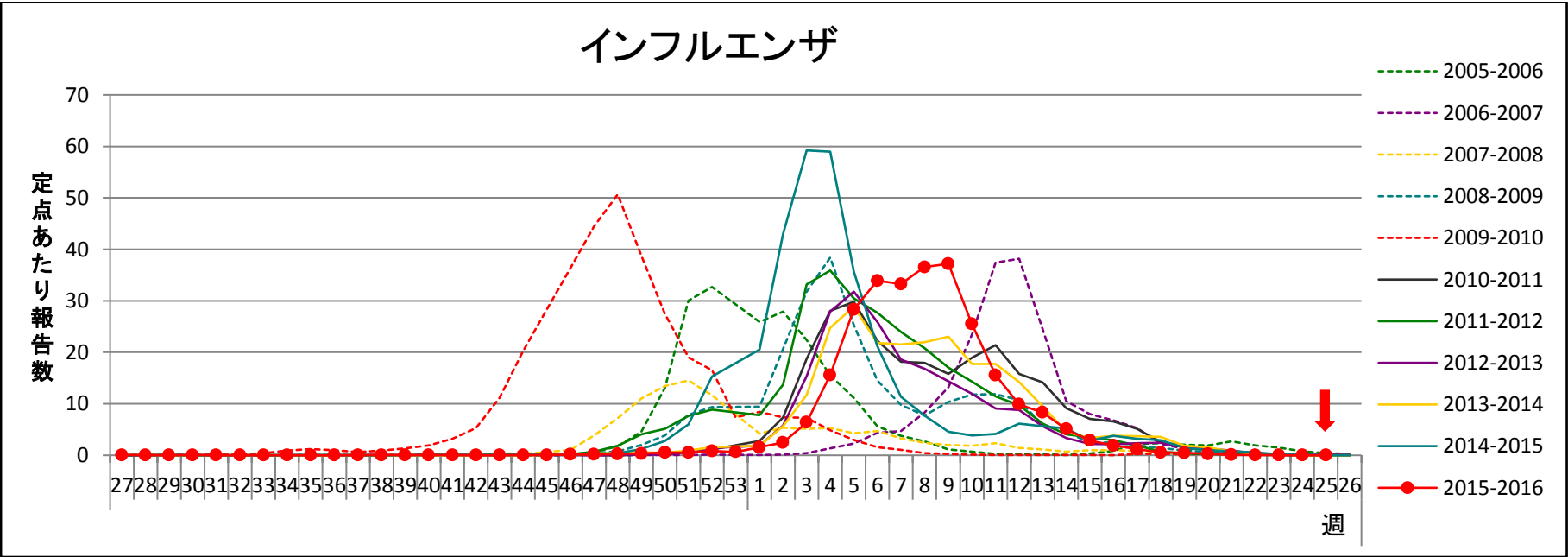
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

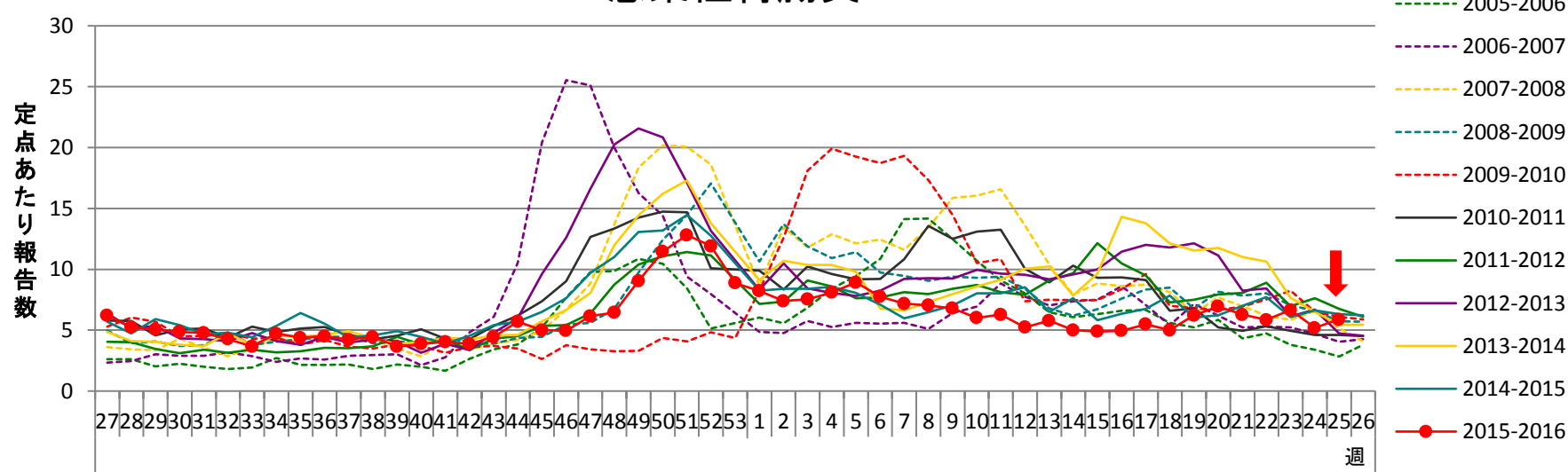
全数把握 感染症患者発生状況

2016 年 25 週

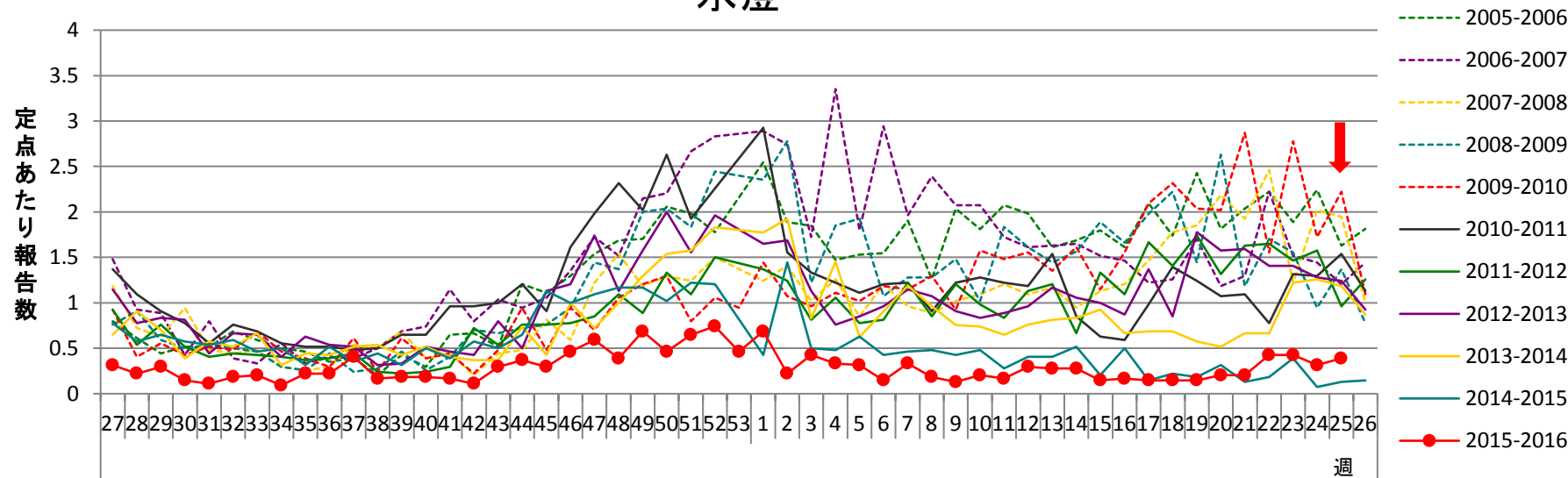
分類	疾病名	2016			2015	2016			2015	2016			2015
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年	
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱 ペスト	-	-	-	痘そう マールブルグ病	-	-	-	
	南米出血熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-	
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-	
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核 中東呼吸器症候群	4	136	373	ジフテリア 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-		-	-	-		-	-	-	
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-	
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢 パラチフス	-	-	2	腸管出血性大腸菌感染症	2	12	63	
	腸チフス	-	-	-		-	-	-		-	-	-	
四類	E型肝炎	-	2	3	ウエストナイル熱 黄熱 回帰熱 狂犬病 ジカウイルス感染症 西部ウマ脳炎 チクングニア熱 東部ウマ脳炎 日本脳炎 Bウイルス病 ベネズエラウマ脳炎 ボツリヌス症 ライム病 類鼻疽 ロッキー山紅斑熱	-	-	-	A型肝炎 オウム病 キャサヌル森林病 コクシジオイデス症 重症熱性血小板減少症候群 ダニ媒介脳炎 つつが虫病 鳥インフルエンザ 日本紅斑熱 鼻疽 ヘンドラウイルス感染症 マラリア リッサウイルス感染症 レジオネラ症	-	2	9	
	エキノコックス症	-	-	-		-	-	-		-	-	-	1
	オムスク出血熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-
	Q熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-
	サル痘	-	-	-		-	-	-		-	-	1	-
	腎症候性出血熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-
	炭疽	-	-	-		-	-	-		-	-	1	1
	デング熱	-	-	2		-	-	-		-	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-		-	-	-		-	-	-	3
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-		-	-	-		-	-	-	2
	野兎病	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-		-	-	-		-	1	14	28
	レプトスピラ症	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-
五類	アメーバ赤痢	-	7	17	ウイルス性肝炎*3 クリプトスポリジウム症 後天性免疫不全症候群 侵襲性髄膜炎菌感染症 先天性風しん症候群 破傷風 風しん	-	3	9	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染 クロイツフェルト・ヤコブ病 ジアルジア症 侵襲性肺炎球菌感染症 梅毒 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染 麻しん	-	11	34	
	急性脳炎*4	-	6	14		-	-	1		-	1	2	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	5	2		-	6	21		-	1	4	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	2	2		-	-	-		-	17	35	
	水痘(入院例に限る。)	-	1	6		-	-	-		-	16	25	
	播種性クリプトコックス症	-	1	1		-	1	-		-	-	-	
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	-		-	-	-		-	-	-	
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-		-	-	-		-	-	-	



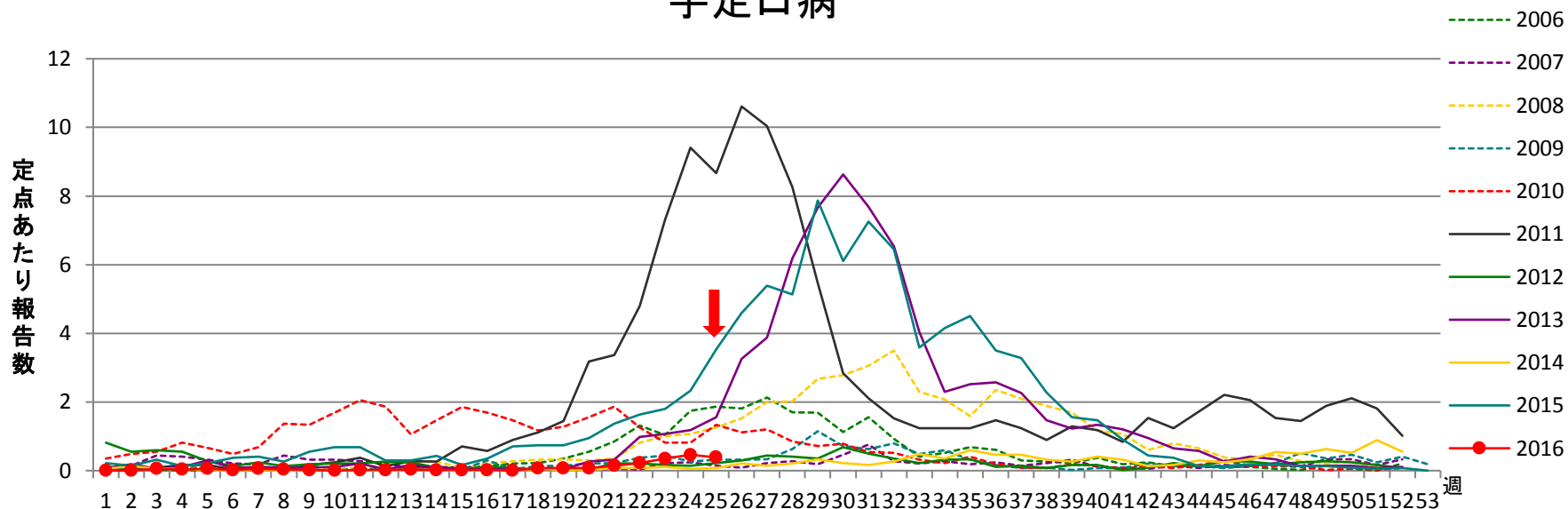
感染性胃腸炎



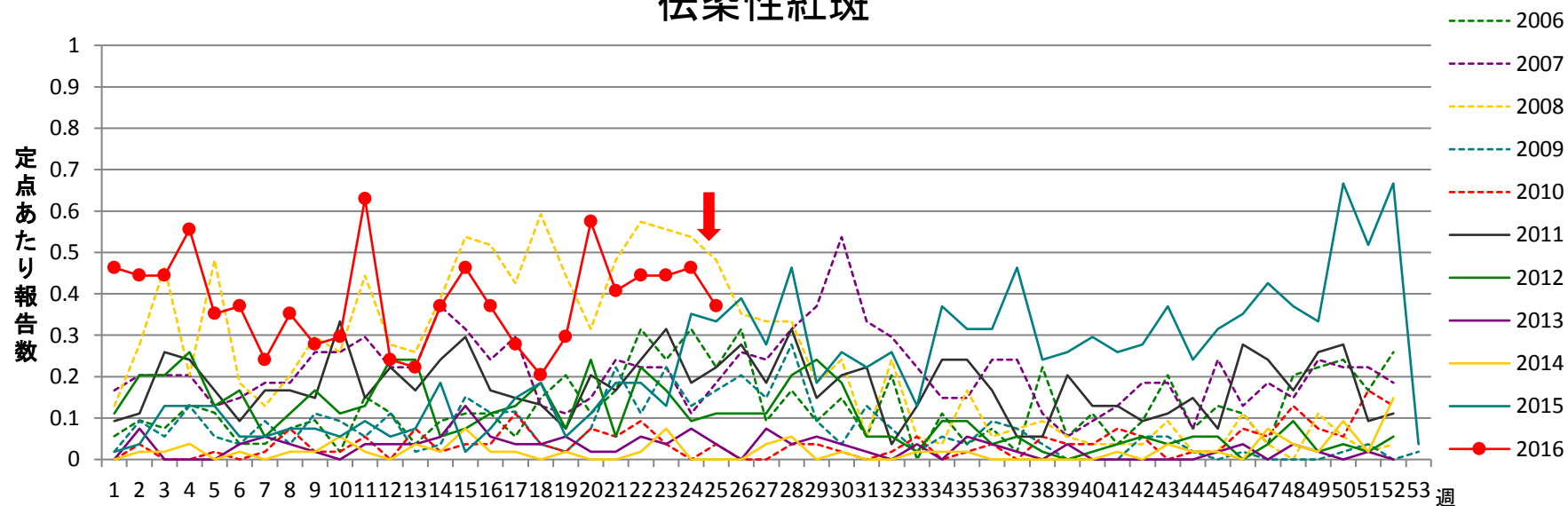
水痘



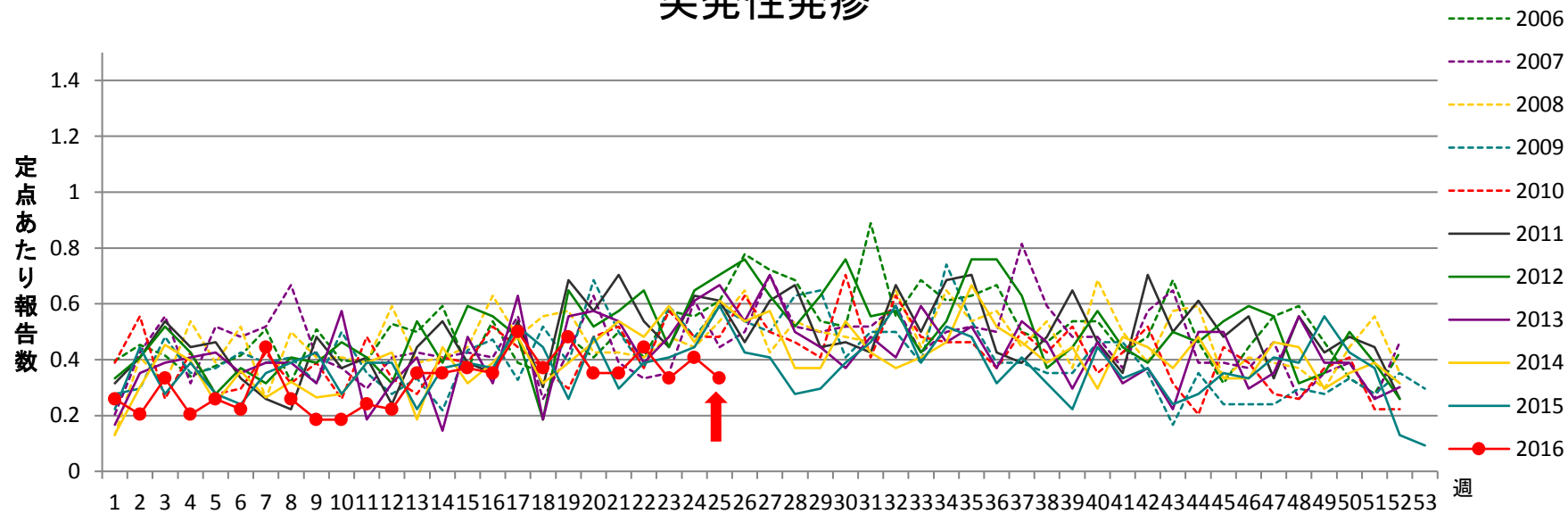
手足口病



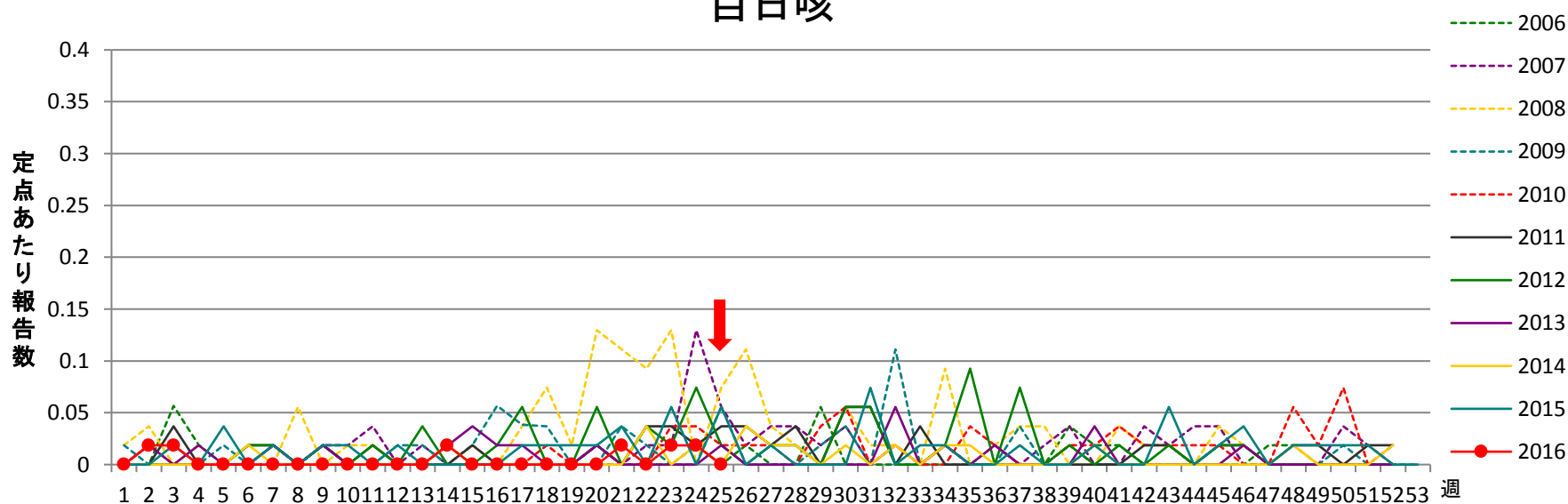
伝染性紅斑



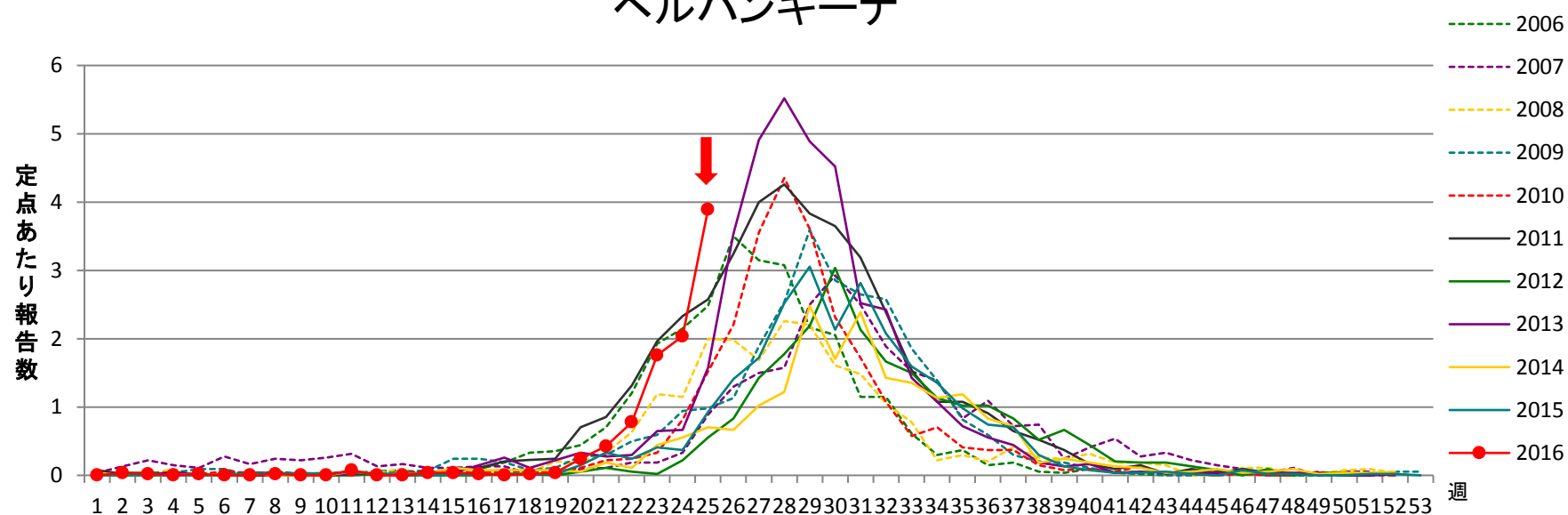
突発性発疹



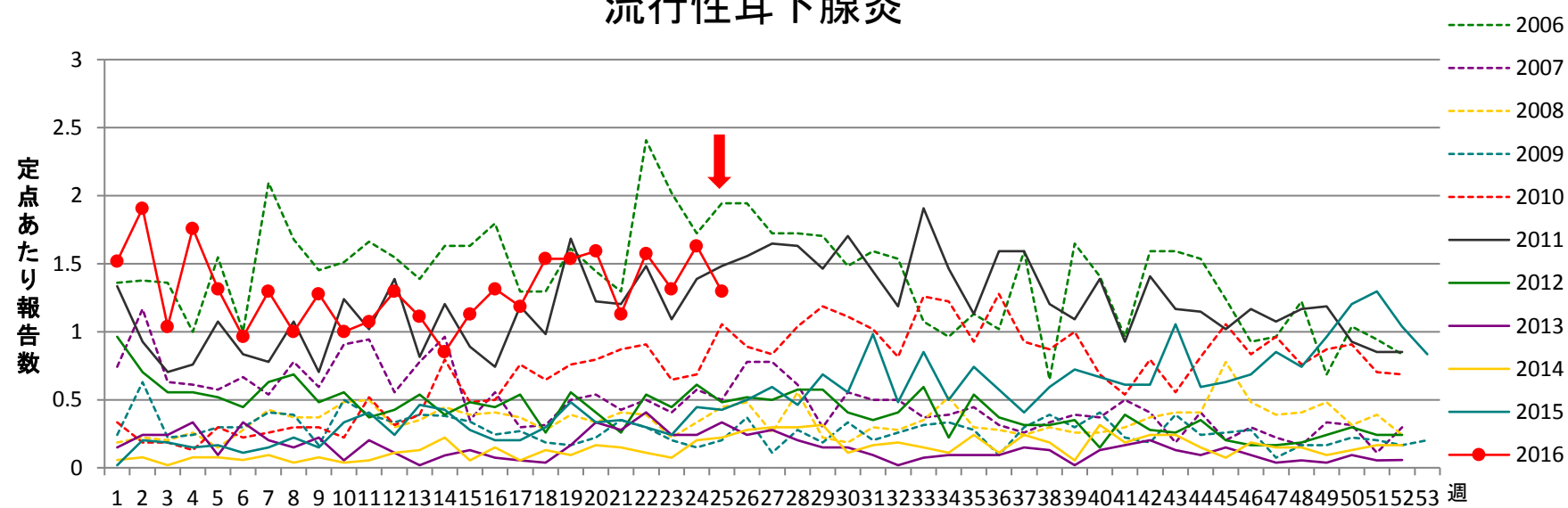
百日咳



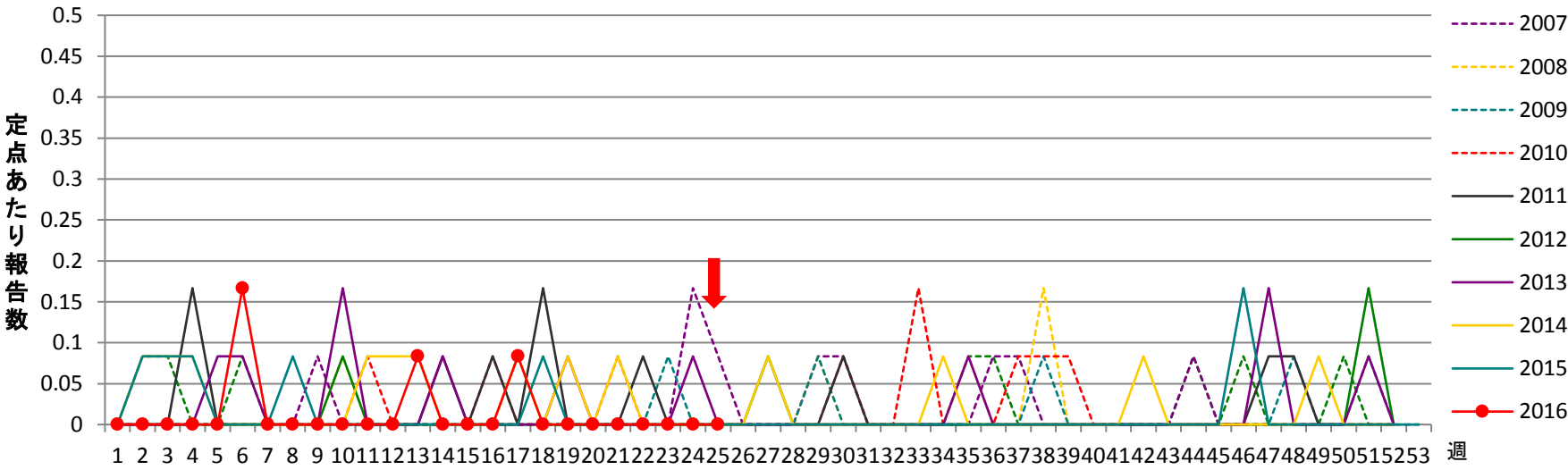
ヘルパンギーナ



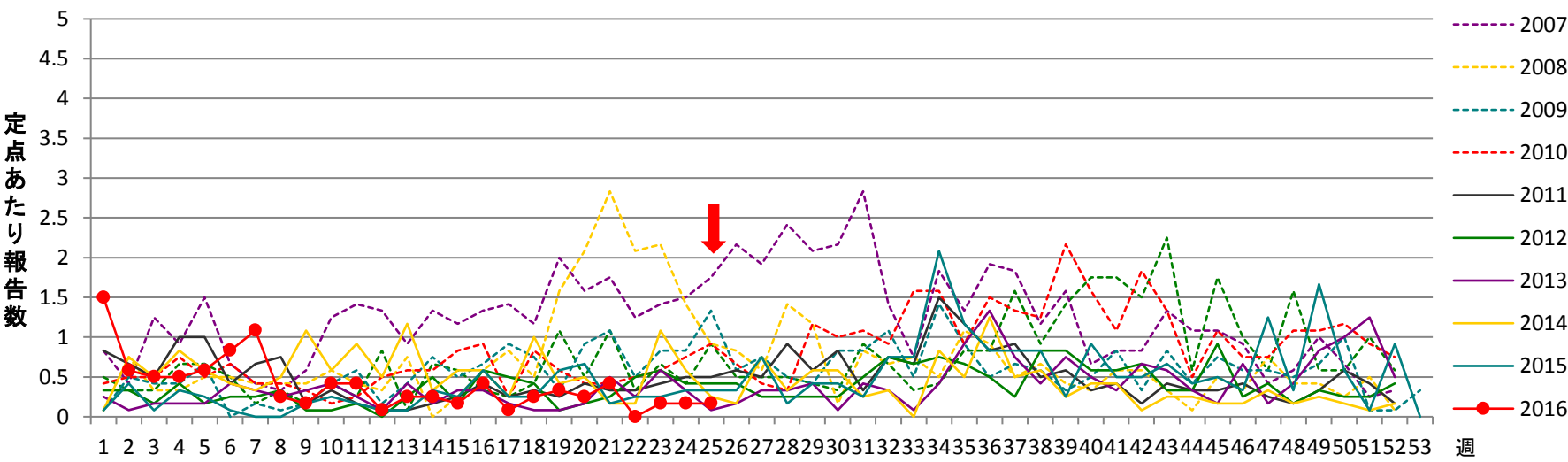
流行性耳下腺炎



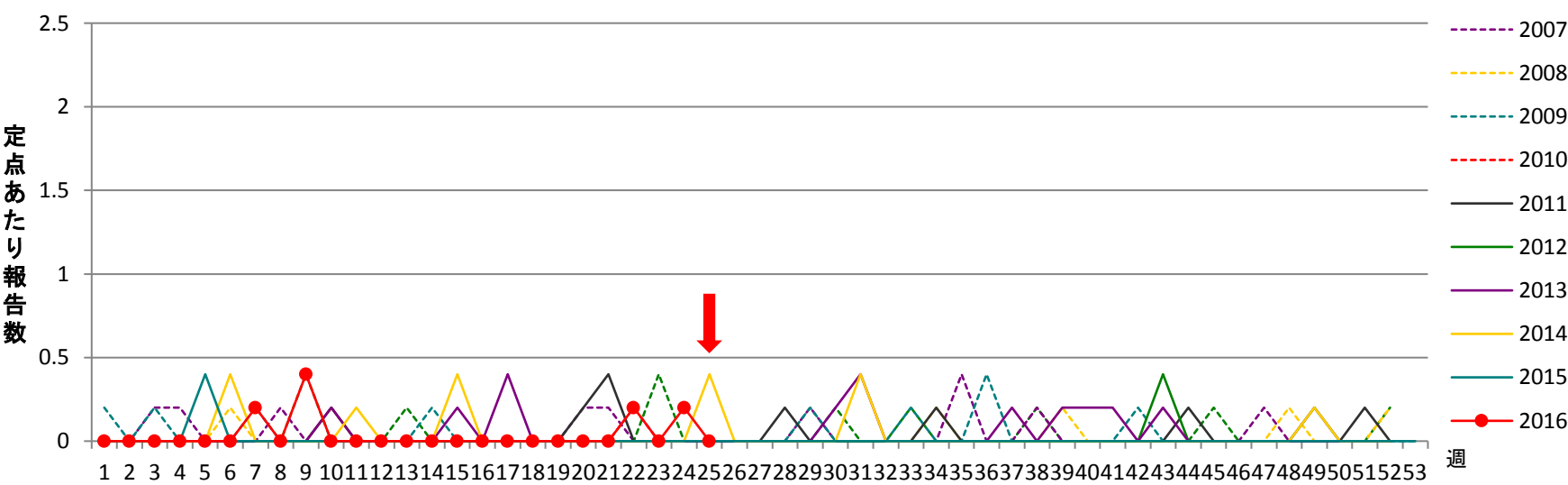
急性出血性結膜炎



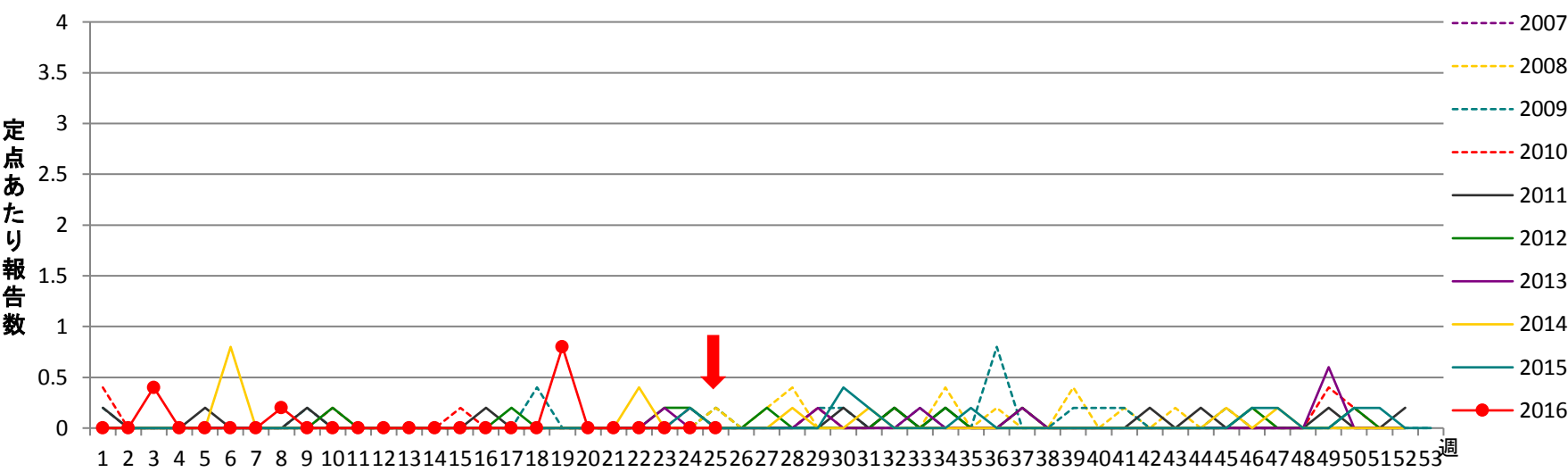
流行性角結膜炎



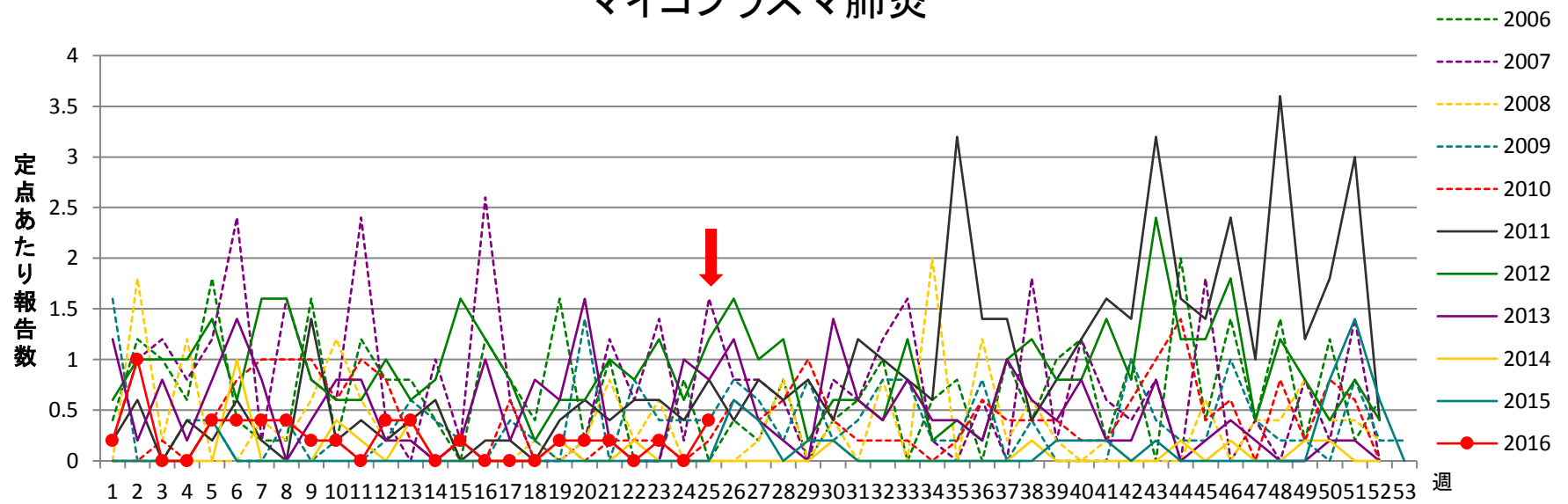
細菌性髄膜炎



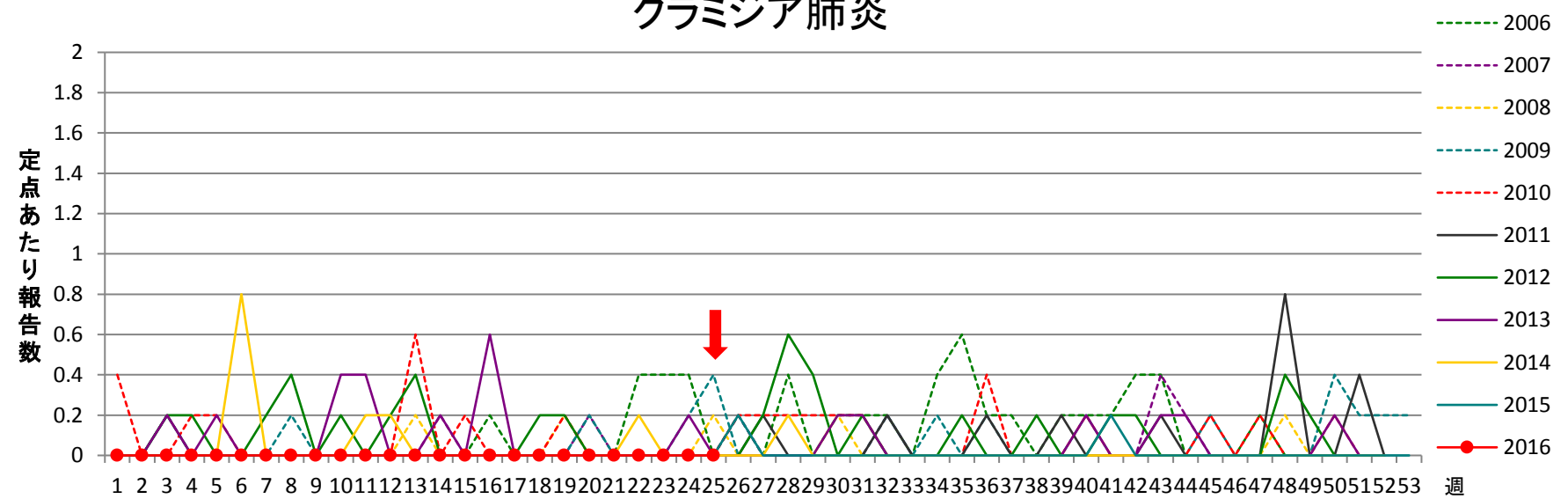
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

